

きゅうりこれからの管理

去年は、抑制胡瓜につきましては定植後から曇雨天続きに見舞われ根張りが悪い中での、成り込みによる草勢低下・褐斑病の発生が目立ち、促成胡瓜につきましては12月まで気温が高かった分旺盛に成育し雄花節位や流果により収穫量が伸び悩んだ状況となりました。

1月になると冷え込みも厳しくなってきます。ハウス内も乾燥してきますので温度湿度管理をしっかりと行い、省エネ対策を講じていきましょう。

【促成胡瓜について】

1月に入りやっと草勢が落ち着いた状況になってきました。力枝についても雌花が連続着果となってきましたので、カンザシ対策として雌花の摘果及び遮光を行っていきましょう。

今年は地温の確保が厳しいと思われますので、果実肥大を考え午前中の温度確保に努めましょう。つる下ろし作業は遅れないようにして下さい。灌水は定期的に行い、肥料切れにならないようにしましょう。曇雨天続きであっても、灌水時間を短くし少しの灌水は行って下さい。

【半促成胡瓜について】

定植後徒長により根張りが悪い場合は、生殖生長に成育し側枝の発生が悪い場合が考えられます。親枝の着果本数が多い場合には摘果作業を行ないましょう。

力枝が伸び急ぐ方につきましては、遮光は避け夕方のハウス内ビニール閉めを遅らせる方法を取るなど、力枝の摘葉作業を行なっていきましょう。

灌水につきましては、こまめに行い肥料切れにならないようにしましょう。

厳寒期になりますと肥料の吸収は鈍くなります。特に地温が低いと更に吸収は鈍りますので、地温確保を行ない速効性の肥料も使用していきましょう。

また、日照時間が短い分草勢低下後の回復は遅れてきます。葉面散布や発根剤を定期的に変更し草勢の維持に努めましょう。曇雨天前後の使用は有効的です。

葉面散布剤 パワフルグリーン2号、メリット、ベストⅡ

発根剤 新RBパワー、夢 10a/2～3リットル

アミノ酸液肥 アミハート 10a/3～5リットル

【病害虫について】

去年はつる枯れ病の発生が良く見られた分、2月以降多発する傾向があります。事前予防の為、つる枯れ防除を行っておきましょう。

ハウス内の多湿環境改善の為、循環扇及び加温機送風を活用しましょう。

促成きゅうりの方につきましては粘着板の張替え時期になっていませんか？粘着部分が少ないようであれば、張替えるか追加で粘着板を設置しましょう。

【黄化えそ病対策】

現在のところハウス外でのスリップス密度はゼロに近い状態になっています。ハウス内で生存しているスリップスにつきましても防除の徹底により、極力少ない状況ではありますが、引き続き定期的な防除を行っていただくようよろしくお願い致します。

果樹園の管理(1月)

2011年は大変お世話になりました。2012年も宜しくお願い致します。

1月の果樹管理は以下の通りです。

1. 日向夏の管理

1) 土壌改良の実施及び有機質施用

- ・土壌改良については土壌分析を実施してから行います。実施の際は土を果樹農産課までお持ちください。

目安…苦土セルカ2号 100kg/10a

- ・日向夏は強勢にするほど着果性が良くなりますので、必ず有機質を施用し、土作りを行います。

目安…完熟堆肥 2t以上/10a

※施用の際は、広げずに固めて置くと細根の発生が良くなります。

2) 病虫害防除

2月より収穫となりますので、病虫害防除は極力実施しないで下さい。

発生した場合は果樹農産課(77-2216)までご連絡ください。

使用目的	使用薬剤	使用倍数	使用時期	使用回数
後期落果防止	マデック	3,000倍	定着期～収穫20日前	1回まで
ハダニ・カイガラムシ類	ハーベストオイル	60～80倍	12月～1月	—

2. 落葉果樹類の管理

1) ハウスぶどう

樹液の流動が止まった1月上旬より剪定を実施して下さい。また、剪定時は発芽後の樹形を考えて誘引も実施して下さい。

2) キウイフルーツ

1月中に剪定を終わらせます。

中果枝、長果枝を主体に切り返しと間引き剪定を併用して行います。3年以上の側枝になると結果部がはげ上がり、また負け枝の原因や衰弱枝になりますので、充実した長果枝に更新します。

昨年も台風により、新芽が発芽した園地がありました。剪定時に枯れこんでいなければ利用できますが、枯れこんでいる場合は通常の剪定を実施して下さい。

※農薬の使用については、使用基準(適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数、散布量等)を守って使用して下さい。改正農薬取締法が施行され、使用者の自己責任となりますので、少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

露地野菜生産者のみなさまへ

平成23年は新燃岳の噴火、東日本大震災等、災害の一年であり、また前年の冬から梅雨入り前までほとんど雨がなく、降り出せば豪雨続きなど、露地野菜の栽培が大変難しい年となりました。生産農家では大変な苦勞があったと思います。今後はどんな気候になるのか予測も立てづらい状況ですが、異常気象に負けないような技術の向上と収量アップ、また販路拡大を目標に、露地野菜の生産販売を行っていききたいと思います。平成24年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、春作の準備・作付が始まります。春は長雨が考えられますので作付は排水のよい圃場を選び、排水溝を作り、水のはけ口を忘れずに作るようにして下さい。準備は早めに取り組みましょう。

<栽培管理について>

・白ネギ・

軟白しにくくなっていますが、こまめに土寄せを行うようにし、軟白部分を多くするように心がけてください。スリップスの食害痕は品質低下の原因となります。

・人 参・

収穫・出荷後の貯蔵中での腐敗が大変多いため、収穫を行う場合は、雨上がりや土壌が乾燥していない場合には行わないようにして下さい。まだ収穫できない人参については首や肩のあたりが土から出ていると日焼けをし、品質低下や腐敗の原因となりますので必ず土寄せを行うようにして下さい。発病枯死した葉などはなるべく圃場外にて処理を行って下さい。

・春バレイショ・

種芋は30～40g前後に切り、乾燥させてから播種を行って下さい。播種後の湿害により種芋が腐敗する場合がありますので水はけの良い圃場を選び、必ず排水溝を作り、水がはけるように出口も必ず作るようにして下さい。保温資材やワラなどをマルチの上にかけておくと防寒対策になります。※契約販売の種子は1月下旬入荷予定となっています。種芋の確認を必ずお願い致します。

・水田ゴボウ・

保温材の被覆後にアブラムシの発生が見られます。保温材が風によって飛ばされるなど、ゴボウの葉が外に出ているとアブラムシが付着すると考えられますので、飛ばされないようにしっかりと押さえてください。播種から4ヶ月後が収穫予定となります。

・簡易施設野菜・

コナガ・アオムシ・ヤサイゾウムシ等の発生による食害痕は品質低下となりますので予防策を十分行って下さい。粘着シートは害虫の通る場所に設置するようにして下さい。

・施設人参・

トンネル栽培では生育が不揃いとなりやすいので地温とトンネル内温度を適温に保つようにして下さい。発芽後は、25～28℃で管理し、30℃以上になったら換気を行って下さい。換気の遅れは裂根の原因にもなります。トンネル内での病虫害の発生が見られますので、木酢液の定期的散布や除草作業の徹底などを行って下さい。(トンネル内温度25℃前後の多湿条件で発生)

・レタス・

生育適温が15～20℃で、10℃以下、25℃以上では生育緩慢となります。温度管理が難しくなりますが、換気しだいで収量が大きく左右されますので、トンネルやビニールの開け閉めは必ず行ってください。また、ハウスでの栽培では、高温になると変形しますので、温度管理に注意してください。

収穫をされる場合は、レタスの温度が高いとしおれ等、品質が悪くなりますので、日中の収穫を避け、収穫したものは直射光線に当たらない涼しい場所に置いてください。

・千切大根・

シーズンを迎えました。品質維持のために、できた千切大根は早めに出荷してください。異物混入が問題となっていますので、十分注意してください。異物の主なものは洗い機のブラシ、わら、ひも、竹くず、木の葉、ビニールシートの破片、髪の毛などです。大根の調整もしっかり行ってください。

・甘藷苗・

日中の換気ができていないと軟弱になり、寒さが来たときに霜傷みしやすくなりますので、朝晩の換気は確実に行ってください。また、乾燥するとアブラムシやダニが発生します。人の手による害虫の持ち込みが原因の一つでもありますので、苗を管理する際は、病虫害の出ている圃場から持ち込みしないよう注意してください。（くつ、ズボンのすそなど）

・病虫害対策・

ハウス・トンネル内など、温度が保たれる場所では害虫の発生がみられ、例年より気温が高い為、ヨトウムシなどの発生がまだ見られます。予防策を必ず徹底するようにしてください。

アブラムシ ⇒ シルバーテープの設置（キラキラ光る事で寄せ付けない）

ダニ・スリッパス ⇒ 葉に付きますが、樹勢が良ければ生育を阻害されることはありません。
かん水ができる圃場であれば、かん水を行う事により発生がおさえられますのでかん水を行って下さい。

コナガ類 ⇒ 粘着シートを使用し、誘引捕殺してください。
作物に近い位置に設置すると効果的です。

春作の作付を計画している方は土壌分析を行い、分析結果に基づき堆肥や苦土石灰等の土壌改良資材の投入を行って下さい（※）。特に雨よけハウスでは、肥料過剰がみられますので、必ず行うようにしてください。完熟堆肥を使用することにより作物の生育や品質が向上しますので播種または定植30日前までには施用を終わらせておくようにしてください。元肥は有機質肥料を使用しますので播種又は定植の7～10日前までには施用して下さい。

※土壌分析を行う事により、養分過剰や不足による障害を防ぎます。土壌分析は乾燥した土で分析に2週間ほど時間がかかりますので早めに提出してください。提出先は果樹農産課又は開発センターまで。

また、収穫出荷前に栽培管理簿の提出をお願いしていますが、産直・直売所に出荷を行う方は果樹農産課へ提出をお願い致します。開発センターへ直接提出を行うと管理内容の点検が出来ませんので必ず果樹農産課で提出を行って下さい。

連絡先…果樹農産課 77-2216